

(様式第4号)

上田市庁舎改修・改築検討委員会 会議概要

1 審議会名	上田市庁舎改修・改築検討委員会
2 日時	平成28年10月5日 午後7時00分から午後8時45分まで
3 会場	上田市役所本庁舎6階大会議室
4 出席者	高木直樹会長、丸山正明副会長、伊藤英一委員、小野将司委員、金井美奈子委員 沓掛由利子委員、小山陽三委員、藤川まゆみ委員、不破泰委員、宮本智夫委員
5 市側出席者	宮川総務部長、小野塚財政部長、清水契約管財担当参事、柳原総務課長、田村建築課長、馬場契約管財課長、若林工事検査政策幹、小林庁舎管理係長、三井建築係長、宮原建築課担当幹、吾妻契約管財課主査、野田建築課主任、荒木建築課主任
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	平成28年10月18日

協 議 事 項 等

1 開 会 (馬場契約管財課長)

- ・ 前回の検討委員会において委員から出された質問に対する回答について、馬場契約管財課長、田村建築課長、若林工事検査政策幹から説明

2 検討及び協議事項

(1) 耐震改修の手法について

1-1 比較検討する改築案について

- ・ 資料に沿い、馬場契約管財課長から比較検討する改築案について概要を説明
- ・ 以降、質疑応答

(委員) 南庁舎については、このまま耐震化ということだが、一体化しての工事というのは考えられていないのか。その場合の費用と、一つにした場合の費用の違いというのは出しているか。

(事務局) 南庁舎は、耐震補強の工事を実施しても、それほど利便性が損なわれないということもあり、耐震補強をして使用をしていくという考えである。建築した場合の費用は算出していないが、概算ということであれば、㎡あたりということで、算出することは可能である。

(委員) 今後、南庁舎も含めての改築の検討が行われる予定はあるか。

(事務局) 今後、改築という方向になった場合に、委員会の中で総合的に検討をしていったらどうかということになれば、一つの材料としては挙がってくるかと思う。

(委員) 費用の算出の仕方について教えてほしい。

(事務局) 周辺の事例等から建設費等を算出している。

(委員) 耐震と改築両方出たが、耐震についてはこれ以上議論することはないかなという感じはする。

改築にあたって、この場所ではなく、新しい場所で作ればもっと大きいものができるのではないかとことも考えられが、その辺の考え方は何かあるか。

(事務局) この後、改築という方向になると、必要な機能、あるいは、それに面積が伴うような建物であれば、現在の敷地の中で建築が可能なのかということさらには精査した中で判断していかなければいけないと考えている。

(委員) 改築の案を見て、これだけのスペースの中で考えていかなければいけないということになると、西庁舎だけ壊して、二中の土地と一部を買い上げれば、もっと安くあがるかなという感じはするが。

(事務局) 何軒か実際に居住されている方もおり、中学校については、最近新しくなったばかりなので、改めて庁舎の敷地として考えるというのは、少し厳しいと考えている。

(委員) これから少子高齢化で人口が減少してくる中で、将来、どのぐらいの規模が必要なのか

ということも考えておかないといけない。

このA案でひとつ大きなものを作ると、今の規模で十分できるということで考えたということか。

(会 長) まだ今の段階でそこに突っ込んでしまうと、議論が進まなくなってしまう。

(委 員) 改築という方向で、少し実の入った議論をした方が、時間の無駄にならないということである。

(事務局) 今日までの話の前提としては、耐震設計をした結果、当初の見込みよりも、経費が大幅にかかるということが判明し、改築をした場合と比較が必要だということで、現在の規模でそのままいった場合に、耐震と改築をする経費の試算を、事務局の方で3案を立てて、比較検討してみたということである。

この委員会でご意見をいただくとするのは、改築という方向に進むのか、耐震改修でいくのか、その際、南庁舎は有効利用するという方向で行くかどうかというようなところが議論になるかと思う。本庁舎の機能についても、もし改築という方向になったときには、目指す庁舎はこういう方向でという議論をまとめていただいたところで、市の中でさらに検討をして、市民の皆さんにご意見をお伺いしなければいけない場面が出てくると思うので、その前段でこの委員会でご意見を賜りたい。

(会 長) まず説明を受けて、耐震改修がいいのか、それとも改築がいいのかという議論をまず深めていった後で、もっと市役所はこうあるべきだという議論をしていただきたい。

(委 員) この改築の案だと面積がだいたい8600㎡だが、この面積で将来的に足りるのか。現地で建てる場合に、これだけの土地を有効活用するために、5階よりももっと高層でできないか。高層にして南庁舎も一緒に解体すれば、スペース的には駐車場にも余裕が出てくると思うが。

(事務局) 8600㎡は、今の事務スペースで、同規模で改築した場合、どうだろうかという比較検討をするためだけの前提なので、もし、改築という方向になったときには、庁舎のあり方がどうなのかという話をさせていただいて、高さ制限、容積率、建ぺい率という制約については、その議論の中で検討していただく。

今、お願いしているのは耐震で臨むべきなのか、それとも改築でということを確認いただいて、その次のステップとして、改築するのならばどこの位置がいいのか、規模がどうなのかというような議論に移っていただければということである。

(委 員) 年内に方針を出したいということだが、耐震補強あるいは改築というのをどこまで議論すればいいか。

(会 長) 可能であれば、皆さんの意思が比較的統一的ならば、今日、その結論が出れば、議論は次のステップに入るので、もし、まとまるならば、今日まとまればと思う。

1 - 2 「耐震補強基本設計の課題」と「改築案」との比較検討

- ・資料に沿い、馬場契約管財課長から比較検討する改築案について概要を説明
- ・以降、協議

(会 長) 改築の方がいいのではないかと事務局は考えているということである。この委員会としても事務局と同様の結論を仮に決定したとしても、そこから先、市民の方のご意見を聞き、議会の決議を経て、というステップがあるので、ここで決めることではないが、一定の方向性を示すことにはなる。

この委員会としては、事務局ご提案の改築の方がいいのかどうか、ということは議論をしたい。一人ひとりご意見をお願いしたい。

(委 員) 改修をしたところでも10年ぐらしか使えない。改築をすればまったく同じ機能であったとしても60年間使えるということから、やはり大きなメリットはあるのではないかと思う。現状でもバリアフリーがかなり悪い状況で、改修をした際には、さらに悪くなるという状況は、賛成しかねるというポイントである。かなり大きな負担になるかと思うが、より良いもの、市民が安全に暮らせるような、暮らしを支えるための機能を持ったも

のに建て替えるのが好ましいと思っている。

現状から言うと、改修のメリットというのはあまり無いというか、デメリットのほうが多いと感じている。

(委員) 市役所を使わせてもらったとき、また、前回、庁舎内を見させてもらった中においても、非常に利便性が悪いのと、手狭だと思う。費用対効果と、税金の使い方という部分を含めて考えたときに、耐震補強より改築の方が、費用の使い方としてはいいのではないかと考えている。何十年先を見た中で、そちらのほうがより有効な費用の使い方である。

改築した場合に、現状の金額より上がるという部分はあるのかもしれないが、耐震した場合でも40億かかるということなので、その費用を今後5年間ぐらいのために使うべきなのかどうかを考えると、やはり改築をした方がいいのではないかと思う。

(委員) 改築案で行くのが妥当だと思うが、まだ比較案を検討する段階ではこの8600㎡で検討するしかなく、まだまだ落ちている見えないお金がたくさんあると思う。市民としては、負担が大きく、どのくらい見えない大きいお金が湧いてくるかという不安も感じるが、改築案で行くのが妥当だとは思っている。

(委員) 改修をしても40億、改築をしても50億ということならば、これを市民の方に、外見も、利便性も、耐震性も、バリアフリーもすべてこういうものが新しくなり、5年ではなく60年間持つということを事細かくお示した上でお話いただければ、改築の方になったとしても、市民の方も納得していただけたらと思うので、改築の方に考えさせていただきたいと思う。

(委員) 基本的に、10億ぐらいの差なら、改築したほうがいいと思う。通路を見ても狭いし。一番は50年前のトイレである。シティーホールなので、気持ちのいいトイレ空間、そういうものも加味しながら改築に進んでもらったほうがいい。耐用年数も60年である。環境が変わっているので、そういう環境に合った改築をしていただければいいと思う。

(委員) 結論から申し上げます、改築で検討していくのがいいと思う。耐震改修しても、結局、使い勝手が悪くなるということ、費用対効果から考えても、改築の方が望ましいと思う。庁舎が分散しているというのは市民にとっては決して都合がいいわけではなく、分散している庁舎を一緒にできるような改築というのを考えていただきたいと思っている。改築するならば、中途半端ではなくて、ぜひ思い切った事業で集約してほしい。

そういうことも踏まえた中で、上田市のランドマークになるような市役所を希望する。

(委員) 市庁舎は、このどこで防災の拠点になり得るのだろうかということがとても心配になった。単に価格の比較ではなくて、改修をした結果、どこに防災・減災の拠点が設けられるのかというものがまったく目途が立っていない。改築案も、防災・減災の拠点とするには50億では足りず、もっと膨らむと思っているが、改修だと膨らませようもないということも含めて、改築案がふさわしいと思う。丁寧な議論の上で、同じ㎡で見たとときには、やや改築のほうが当然価格は上がるが、実際にも50億では済まず、もう少しかかるが、それは市民を守るというために必要なものであるという覚悟をしているのであれば、それを応援もしたいし、その意味で、改築案に賛成する。

(委員) 私もやはり改築がいいと思っているが、使えるものをいかにリユースするか、リサイクルに回せるものは回して、リデュースとか、そういう発想をしたうえでの改築が必要ではないかと思う。ライフサイクルアセスメントというのがあり、エネルギーの面だけを見ると、やはり10年以上古いものは買い換えたほうが断然エネルギー消費は少なくなる。エネルギー面でも市庁舎がどうなのかという発想で進めていただきたいと思う。環境にとっても、現状よりはいい建物にしてもらいたい。それには費用がかかるかと思うが、費用対効果を考えて改修をした方がいいのではないかと思う。

(委員) さっき申し上げたとおりである。費用がかかるが、どうせ作るならいいものがあるだろうという考えもあるだろうし、一般市民から見ると、そんな無駄な金を使うなという声も出てくるだろうし、いろんな問題が入ってくると思うが、総合的に考えながら、将来構造も考えながら、一般市民に出したときに、「それはもう議論して、こうなっています」と

言わないと、ただ単純に何をやっていたんだっていう話になってしまうので、その辺のところを少し、改築ということで、内容を詰めていったら検討委員会としての職務は全うされると思う。

(会 長) 今、皆様の意見をいただいて、委員会としては、改築案の方がいいだろうという結論になっていたと思う。この委員会としては、この結論を一つの大きな柱として出していくことになるかと思う。

市民の方に説明し、また、議会等へ説明するときにも、40億と50億という数字だけの議論にならないようにしていただきたい。あくまでもこの40億と50億というのは8600㎡で今の機能がまったく変わらない状態だとしてという話である。

今後、人口が減少していったときに、オーバースペックの市庁舎だけが残って、その維持費が少ない市民に負担がかかるというのは、あのとき何をしていたんだという議論にもなるので、そのところはきちんと市民に説明していただいて、適正規模を判断していくということが重要である。

もちろん環境問題は待ったなしだということは、申し上げておく。

とりあえず今の段階では、改築の案でこの委員会としては一応まとまったということにさせていただきます。

協議結果：検討委員会としては、改築の方向でまとまった。

(2) 市役所の位置について

- ・資料に沿い、馬場契約管財課長から市役所の位置について概要を説明
- ・質疑なし

(3) その他

次回会議の日程

- ・先進市視察(第3回検討委員会)は10月24日(月)、第4回検討委員会は11月8日(木)に開催する。